

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25年 5月 30日現在

機関番号：12701
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22530219
 研究課題名（和文）東アジア経済統合のもとでの企業の進化的多様性と産業システムのダイナミズム
 研究課題名（英文）The Evolving Diversity of Firms and the Dynamism of the Industrial Systems in the Asian Economic Integration
 研究代表者
 植村 博恭 (UEMURA HIROYASU)
 横浜国立大学・経済学部・教授
 研究者番号：70184976

研究成果の概要（和文）：

研究セミナーを開催し、海外共同研究者を招聘して国際コンファレンスを数回開催し、次のような研究成果が得られた。(1) 東アジアにおける企業の進化的多様性：日系多国籍企業の活動を中心に東アジアにおける多国籍企業の戦略の多様性と変化を分析し、いくつかの企業戦略とイノベーションのパターンが存在することを発見した。(2) 東アジアの産業システム：東アジア国際産業システムでは、近年相互依存関係を増しており、特に中間財貿易の発展が著しい。(3) 東アジア資本主義の多様性：東アジア資本主義は次の5つのグループに分類できることを確認した：「イノベーション主導型資本主義」、「都市資本主義」、「輸出主導型工業化資本主義」、「島嶼・半農業資本主義」、「大陸混合型資本主義」。

研究成果の概要（英文）：

Having research seminars and international conferences with international collaborative researchers, we obtain following research results. (1) The evolving diversity of firms in East Asia: We analyzed the diversity and transformations of multinational corporations' strategies in East Asia, and found there are several different patterns of corporate strategy and innovation. (2) The industrial systems in East Asia: Interdependence has increased in the international industrial systems recently, and, especially, intermediate goods trade has developed remarkably. (3) The diversity of Asian capitalisms: We identify five groups of Asian capitalisms: "Innovation-led capitalism", "City capitalism", "Export-led industrializing capitalism", "Insular semi-agrarian capitalism", "Continental mixed capitalism".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：国際産業システム、企業システム、資本主義の多様性、アジア経済、日本経済

1. 研究開始当初の背景

これまで企業システムの多様性分析は、主として生産システムと企業組織の多様性に焦点をあわせたものであり、異なった製品・組織アーキテクチャーやビジネス・モデルに関する研究成果(Fujimoto, 2007, *Evolutionary and Institutional Economics Review*) やコーポレート・ガバナンスの多様性に関する研究成果 (Aoki, Jackson and Miyajima, 2007) が生み出されている。他方で、マクロ的観点からは「資本主義の多様性」に関する研究成果が生み出されている (Hall and Soskice, 2001、山田,2008)。

本研究の最大の特徴は、東アジア経済統合の動態を分析しつつ、マイクロレベルとマクロレベルのこれら2つの研究動向を統合することである。このようなアプローチによる研究としては、すでに国際的共同研究プロジェクトGERPISAの「生産モデル論」などがある (Boyer and Freyssenet, 2000)。しかし、日本、中国、韓国を中心とする東アジア地域においてこの種の研究を行うのは初めての試みである。さらに、本研究では、国際産業連関分析と多国籍企業のマイクロ・データ分析を統合することによって、東アジア地域での「デ・ファクトの経済統合」における産業構造の動態と企業システムの進化を分析する。

本研究では、特にこれまでの研究成果を次のように発展させる。①企業システム・雇用システムの多様性を進化プロセスに着目して分析する。本研究は、企業の進化プロセスをモデル化し、イノベーション・システム、製品アーキテクチャー、組織ケイパビリティ、製品市場、企業戦略、労働市場などの要因を考慮した進化モデルを構築し、日本企業などの多国籍企業を対象に実証研究を進める。

②東アジア地域における国際産業連関と企業システムの進化との相互規定的関係を分析する。近年、アジア国際産業連関表を用いた研究が進んでおり、山田、植村、宇仁、藤川、J. Wangによって、アジア諸国の国際産業連関の相互依存性の深化と多国籍企業活動分析されている。これらの研究を踏まえ、本研究では国際産業連関分析を活用する。

③企業システムの進化を軸に国際経済システムにおける制度的補完性のダイナミズムを分析する。東アジア地域において、イノベーション・システム、金融システム、産業システムがどのように変化し、システム相互の制度的補完性がどのような動態的变化を遂げるか長期的な観点から分析する (Aoki,2002、Amable,2003、Uemura, Isogai and Ebizuka,2007)。

2. 研究の目的

本研究は、東アジア地域の経済統合において、多国籍企業の国際的活動によって生み出される企業システムの多様な進化と国際的な産業システムのダイナミズムを研究することを目的とする。特に、東アジア地域における日本企業や外国企業の制度的多様性と相互依存性が各国の産業構造のダイナミズムに与える影響を分析する。その際、次の2点に焦点をあわせる。第1に、企業システムの多様性とその進化の視点を積極的に導入する。特に、国ごとに、産業ごとに異なる企業システムと企業戦略が、国際的産業システムの動態をどのように規定しているか分析する。また、企業のガバナンスや投資行動を規定する各国の諸制度の補完性によって、どのように影響を受けるか検討する。第2に、国際産業連関の相互依存性と相互補完性に関するマクロ的観点を重視し、東アジア域内の成長と停滞の経

済変動と諸企業の動態との関連を分析する。そのうえで、東アジアにおける企業システムと産業システムの相互依存関係を展望する。

3. 研究の方法

本研究は、横浜国立大学企業成長戦略センター及び経済学部附属アジア経済社会研究センターとの連携のもとで行われ、研究方法と研究領域の多様性に対応して「マトリックス型の国際研究体制」を組織し研究を進める。また、海外の研究者をアカデミック・アドバイザーとし、国内共同研究者とアジアやヨーロッパの海外共同研究者が互いに連携をとりつつ研究を進展させる。特に、研究方法としては、企業システムの進化的多様性の研究、企業間取引の研究、国際産業連関の研究を結びつけ研究成果の共有をする。

(I) 企業システムの多様性の進化プロセスに関する研究グループ（植村、宇仁、山田、原田、徳丸；R. Boyer (CEPREMAP, France)、S. Lechevalier (EHESS, France)) ①企業システムの多様な進化プロセスに関して、企業の異質性を規定する諸要因を考慮した企業群動学モデルを構築する。②東アジア経済統合の動態を前提として、異なる制度編制と外部環境のもとでの企業システムの進化的多様性を実証するための分析モデルを作成し、東アジア地域の企業システムの実証分析に積極的に適用する。

(II) 日本・中国・韓国・台湾における企業システムの多様性の実証分析グループ（磯谷、遠山、宇仁、木崎、植村；Robert Boyer (CEPREMAP, France)、Lei Song (Peking University, China)、Jean Wang (Southern Cross University, Australia)、Wooseok Ok (University of Incheon)、Junho Yang (University of Incheon)) ①日本の企業システム・雇用システムと産業システムの多様性に関して、マイクロ・データ分析と企業調査分析の両面から

分析を行う。②中国の企業システムと産業システムについて企業調査とデータによって実証分析を行う。③韓国の企業システムと産業システムを分析する。④各国の企業システムに関する実証研究結果をもとにして、総合的な比較制度・産業分析を行う。

(III) 多国籍企業のガバナンス・投資行動・生産活動の実証分析グループ（遠山、植村、木崎、磯谷；Sebastien Lechevalier (EHESS, France)、Lei Song (Beijing University, China)、Jean Wang (Southern Cross University)、Wooseok Ok (University of Incheon)) ①東アジア経済の構造変化と企業のガバナンス構造の観点から多国籍企業の投資活動と生産活動の分析を行う。②多国籍企業のマイクロ・データを分析し、その投資行動を解明する。③多国籍企業による産業連関効果を分析する。

(IV) 企業システムと国際産業システムの相互規定性と動態に関する総合分析グループ（植村、宇仁、原田；Robert Boyer (CEPREMAP, France)、Jean Wang (Southern Cross University)、Junho Yang (University of Incheon)) ①東アジア地域を対象にして国際産業連関分析を進展させることによって、東アジア諸国における中間財と最終財の取引を通じた産業の相互依存関係の発展を分析する。②各グループの研究成果を総合しつつ、企業システム・産業システムに関する制度補完性の動学的考察を行うとともに、国際分業関係の長期的変化を考察する。その際、特に、海外共同研究者である Robert Boyer (CEPREMAP, France)、Simona Iammarino (LSE, UK)を主要なアカデミック・アドバイザーとしてその知見を活用してきた。

4. 研究成果

(1) 東アジアの企業の進化的多様性

東アジア地域においては、多国籍企業が多

様な進化を遂げつつあり、遠山弘徳「東アジア諸経済におけるイノベーション—グローバル・サプライチェーンの補完的役割—」『経済研究』17巻4号、2013年は、特に東アジアのイノベーション・システムとサプライチェーンに焦点を当てて、この点を研究した成果である。

アジア経済におけるイノベーションに関して、第1に、技術的知識の取得・摂取方法の特殊性から、イノベーションを吸収するナショナル・イノベーション能力が重要である。第2に、ナショナルなイノベーション能力が不十分だとしても、欠けた能力は国際的なリンクエージによって補完されている。国際的生産リンクエージの中で、生産プロセスのグローバルな規模でのフラグメンテーションとグローバル・サプライチェーンを通じて、先進国から新興経済へ新たな生産システムと技術的知識の移転が行われる。これが、多国籍企業の投資行動と企業進化を促進している。したがって、技術的イノベーションがナショナル・イノベーション能力によって規定されるとともに、その能力が国際生産リンクエージと地域的諸制度によって補完されているのである。

(2) 東アジアの国際産業システム

東アジアの国際産業システムは、これまで中国経済を中心として編成されてきた。Jian Wang, Nagendra Shrestha and Hiroyasu Uemura, “Chinese international production linkages and Japanese multinationals: Evolving industrial interdependence and coordination”, Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) (2012) は、企業分析と国際産業連関分析を統合し、日系多国籍企業の対中直接投資と国際生産リンクエージが、自動車産業と電機産業で異なった変化を示してきた点を実証している。また、中国経済と日本経済に与える後方

連関効果にも産業によって違いがあることを確認している。これは、モジュール化の進展度の相違と関係する。宋磊「いわゆる中国経済モデル論の起源、構成と問題点：代替案のための考察」(山田・植村・宇仁・磯谷編(2013))では、中国の経済制度モデルは、中国の異なる地域で複数存在していることが示されている。また、「モジュール化の罠」に陥る危険も指摘されている。

近年、東アジアの国際生産ネットワークが発展するのに伴って、中間財貿易（付加価値貿易）が急速に拡大しており、そのなかで、特に中国経済の成長が中心的役割を果たしている。また、中国の経済制度の国内的多様性に注目する必要がある。日本企業などの多国籍企業は、中国の各地域への直接投資を増加させ、積極的に輸出を行うことによって国際生産ネットワークの発展を牽引しており、このため地域の産業の特殊性に応じて中国経済への後方連関効果を強めている。

(3) 東アジア資本主義の多様性

Yuji Harada and Hironori Tohyama, “Asian capitalisms: institutional configurations and firm heterogeneity”, Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) (2012)及び遠山弘徳・原田裕治「アジア資本主義の多様性——制度的構図と企業のイノベーション活動」(山田・植村・宇仁・磯谷編(2013))などの成果がえられ、それは次のようになる。

東アジア各国の制度的属性に基づくクラスター分析の結果、アジア資本主義は、次のようなグループに分類される：イノベーション主導型資本主義（日本、韓国、台湾）、都市資本主義（香港、シンガポール）、輸出主導型工業化資本主義（マレーシア、タイ）、島嶼・半農業資本主義（インドネシア、フィリピン）、大陸混合型資本主義（中国）。それらは、「市場の自由化の度合」と「貿易依存

度—社会防衛のトレード・オフ」を軸に区別される。これらの異なるタイプの資本主義は異なった産業システムを持っており、国内の制度編成と多国籍企業の戦略との間に補完関係が存在する（マイクロ・データで確認される）。さらに、Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai, “The evolving diversity of Asian capitalisms, from the Asian crisis to the subprime crisis”, Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) (2012)では、各グループのアジア資本主義は、国際経済に異なるかたちで編入されており、サブプライム危機に対しても異なった対応を示したことが確認された。このことは、東アジア通貨同盟を考えるうえでも (Uni (2012))、また、日本の産業構造変化の将来を考えるうえでも (Tahara and Uemura (2013)) 示唆的である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

・ 2013 年

① Shinji Tahara, and Hiroyasu Uemura, The Transformations of Growth Regime and De-industrialization in Japan, *Discussion Paper Series (CEGS, Yokohama National University)*, No. 2012-CEGS-02, 2013. (査読なし)

② 遠山弘徳「社会保護需要、社会的リスクおよび直接投資」『アジア研究』(静岡大学) 第 8 号、pp.33-44、2013 年 3 月。(査読なし)

③ 遠山弘徳「東アジア諸経済におけるイノベーション——グローバル・サプライチェーンの補完的役割——」『経済研究』(静岡大学) 17 巻 4 号、pp.115-137、2013 年。(査読なし)

・ 2012 年。

④ Jian Wang, Nagendra Shrestha and Hiroyasu Uemura, “Chinese international production linkages and Japanese multinationals: Evolving industrial interdependence and coordination”,

Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*, Routledge, pp.143-164, 2012.

(査読付き)

⑤ Yuji Harada and Hironori Tohyama, “Asian capitalisms: institutional configurations and firm heterogeneity”, Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*, Routledge, pp.243-263, 2012. (査読付き)

⑥ Hiroyuki Uni, “Comparative analysis of conditions for monetary integration”, Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*, Routledge, pp.287-307, 2012. (査読付き)

⑦ Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai, “The evolving diversity of Asian capitalisms, from the Asian crisis to the subprime crisis”, Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*, Routledge, pp.330-349, 2012. (査読付き)

⑧ 遠山弘徳「企業の戦略分布とイノベーション—東アジア資本主義の制度的多様性へのミクロ的アプローチ—」『アジア研究』(静岡大学) 第 7 号、pp.5-23、2012 年 3 月。(査読なし)。

⑨ 遠山弘徳「アジア経済の制度的多様性、企業戦略の異質性および金融不安定性」*Korean Business Review*, Vol.3, No.3, pp.33-62、2012 年。

(査読なし)

・ 2011 年

⑩ Hiroyuki Uni, “The Financial-led Regime in the United States: a Fundamental Dilemma in Cumulative Causation”, *The Review of Social and Economic Studies*, Vol.37, No.2. 66-106, 2011. (査読付き)

⑪ 原田裕治 「資本主義の多様性とアジア経済」 福山市立大学開学記念論集編集委員会『都市をデザインする——福山市立大学開学記念論集』 児島書店、pp.273-90、2011年。

(査読なし)。

・2010年

⑫ 徳丸宣穂 「東アジアの技術蓄積と輸出競争力：特に IT 関連部門を中心に」 平川均ほか編『東アジアの新産業集積：地域発展と競争・共生』 学術出版会、pp. 483-508、2010年。(査読なし)

[学会発表] (計 8 件)

・2012年

① 植村博恭・田原慎二、「日本経済の成長体制の転換と脱工業化」 経済理論学会大会、愛媛大学、2012年10月07日。

② 西洋・磯谷明德・植村博恭 「アジア資本主義の制度的階層性とマクロ経済的多様性」 経済理論学会大会、愛媛大学、2012年10月06日。

③ Hiroyasu Uemura, “The Transformations of Japanese and Chinese Capitalisms and Evolving Industrial Interdependence”, SASE 24th Annual Conference, MIT, June 28th, 2012.

④ Yuji Harada and Hironori Tohyama, “Institutional Diversity, Industrial Structure, and Heterogeneous Firms in Asian Capitalisms”, SASE 24th Annual Conference, SASE 24th Annual Conference, MIT, June 28th, 2012.

⑤ 植村博恭・西洋・磯谷明德 「東アジア資本主義の進化する多様性：統合化の制度階層性・補完性」 進化経済学会第16回大会、摂南大学、2012年3月17日。

⑥ 遠山弘徳・原田裕治 「アジア資本主義における制度的多様性と企業の異質性」 進化経済学会第16回大会、摂南大学、2012年3月17日。

・2011年

⑦ Akinori Isogai, “Transformation and Evolution of the Japanese Corporate System”, European Association for Evolutionary Political Economics (EAEPE), 2011 Conference, Tech Gate Vienna, Austria, 2011年10月29日。

・2010年

⑧ 山田鋭夫 「世界金融危機と資本主義の動態」 進化経済学会第15回大会、名古屋大学、3月19日 2011年。

[図書] (計 5 件)

① 山田鋭夫・植村博恭・宇仁宏幸・磯谷明德 編『転換期のアジア資本主義』 藤原書店、pp.1-400、2013年。

② ロベール・ボワイエ 『ユーロ危機』 (山田鋭夫・植村博恭訳) 藤原書店、pp. 1-203、2013年。

③ Robert Boyer, Hiroyasu Uemura and Akinori Isogai (eds.) *Diversity and Transformations of Asian Capitalisms*, Routledge, pp.1-309、2012。(査読付き)

④ 宇仁宏幸・山田鋭夫・磯谷明德・植村博恭 『金融危機のレギュレーション理論』 昭和堂、pp.1-265、2011年。

⑤ R・ボワイエ 『金融資本主義の崩壊——市場絶対主義を超えて』 (山田鋭夫・坂口明義・原田裕治監訳) 藤原書店、pp.1-444、2011年。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

植村 博恭 (UEMURA HIROYASU)

横浜国立大学・経済学部・教授

研究者番号：70184976

(2) 研究分担者

宇仁 宏幸 (UNI HIROYUKI)

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：90268243

山田 鋭夫 (YAMADA TOSHIO)

名古屋大学・経済学研究科・名誉教授

研究者番号：10024978

磯谷 明德 (ISOGAI AKINORI)

九州大学・経済学研究院・教授

研究者番号：60168284

木崎 翠 (KIZAKI MIDORI)

横浜国立大学・経済学部・教授

研究者番号：40260541

遠山 弘徳 (THOYAMA HIRONORI)

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：20202195

原田 裕治 (HARADA YUJI)

福山市立大学・都市教養学部・准教授

研究者番号：70313971

徳丸 宣穂 (TOKUMARU NORIO)

名古屋工業大学・工学研究科・准教授

研究者番号：00387656

(3) 連携研究者

なし